

令和元年度 第2回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会 会議録

1 開催日時

令和2年3月26日（木）午後2時～午後3時40分

2 開催場所

射水市役所3階 302会議室

3 出席者

委員 宮嶋委員、門田委員、佐野委員、中川委員、牧野委員、
山崎委員、松浦委員、森山委員、武部委員、長谷委員
事務局 福祉保健部地域福祉課 糸岡課長、政岡課長補佐、作道係長、鈴木主任、
小西主事、野島主事、荒木第1層生活支援コーディネーター、
綿谷次期第1層生活支援コーディネーター
福祉保健部保険年金課 篠原課長

4 欠席者 若林委員、砂原委員

5 会議内容

(1) 報告事項

- ①射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 【資料1】
- ②訪問型日常生活支援の取り組みについて【資料2】
- ③地域共生社会の推進に向けた部局横断的連携体制について【資料3】

(2) 協議事項

- ①地域活動支援事業の統合について 【資料4】

(3) その他

- ①今後のスケジュールについて 【資料5】

6 会議資料

【資料1】射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について

【参考1-1】令和元年度地域支え合いネットワーク事業 未実施地区との意見交換
まとめ

【参考1-2】令和元年度 みんなで学ぼう！地域支え合い講演会及び住民サポーター
研修会の開催状況等について

【参考1-3】みんなで学ぼう！地域支え合い講演会及び住民サポーター研修会
アンケート結果

【資料2】訪問型日常生活支援の取り組みについて

【参考2-1】射水市内 訪問型日常生活支援

- 【参考2-2】 広がれ ケアネット活動（射水市社会福祉協議会）
- 【参考2-3】 シルバーたすけあい隊（シルバー人材センター）
- 【参考2-4】 ふたくちライフサポート倶楽部の設立・活動
- 【参考2-5】 戸破くらし応援隊
- 【参考2-6】 くらしの助け合いの会「にこりーな」
- 【参考2-7】 たすけっとクラブ チラシ及び実績（富山医療生活協同組合）
- 【参考2-8】 実家の茶の間・紫竹（新潟県新潟市東区の任意団体 実家の茶の間）
- 【参考2-9】 泉ヶ丘きばいもんそ会（鹿児島県鹿屋市 泉ヶ丘団地集会所）
- 【資料3】 地域共生社会の推進に向けた部内横断的連携体制について
 - 【参考3-1】 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施
（市町村における実施のイメージ図）
- 【資料4】 地域活動支援事業の統合について
 - 【参考4-1】 地域支え合いネットワーク事業・地域ふれあいサロン・
100歳体操グループ 概要
- 【資料5】 今後のスケジュールについて
- 【参考】 射水市地域支え合いネットワーク事業活動事例集（令和2年1月発行）

7 会議記録

○…各委員 ●…事務局

議事

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 【資料1】

○住民サポーター講演会の周知方法の中で最も多くの参加者を集めた方法はどれか。

●講演会後のアンケート結果によると、100歳体操グループや地域ふれあいサロングループ等の「各団体への案内を通して」講演会を知った方が186人と最も多かった。グループ内での口コミ等によって講演会についての周知が進んだようだ。

○支え合いネットワーク事業（以下、「支え合い事業」と呼称）について、未実施地区が市内7地区あるが、それらの地区の事業実施に向けた手ごたえ等を伺いたい。

●未実施地区には地域福祉課職員が訪問させていただき、事業説明を行ったり地域住民の声を伺ったりしている所である。いずれの地区も事業実施に向けて動きつつあると感じている。

○事務局からの説明について補足する。新湊東地域包括支援センター圏域でも各振興会が

事業実施に向けて動きつつあり、振興会長の間で競争意識も生まれているようだ。

(2) 訪問型日常支援支援の取り組みについて 【資料2】

○戸破くらし応援隊の活動件数について、依頼10件出動4件とのことだが、これは多いのか。

●戸破地区の方によると、「想定していたよりは少ない。暖かい季節になれば依頼が増えるのではないか」とのこと。

○支え合い事業実施地区では、集いの場に行くための移動手段をどのように確保しているのか。

●支え合い事業実施地区の中には地区内に複数ある公民館を拠点とし、移動の負担軽減を図っている事例がある。一方、地域住民がコミセンへの送迎を行っている地区もある。地区の特徴に合った方法で移動手段の問題に対応していただきたい。

○支え合い事業未実施地区の中には「事務負担増加への懸念」から、事業実施を躊躇している地区もあるようだ。事業実施に当たっての事務分担について教えてほしい。

●支え合い事業の事務分担は地域によって異なる。だが、第3層生活支援コーディネーター（以下、「3層SC」と呼称）や100歳体操の世話役などが中心となって事務分担をしている地区が多い。

○訪問型日常生活支援には商工会も協力していきたい。具体的には、地域の電気屋が顧客の自宅に出向いて電球交換を行う等の事例が考えられると思う。

(3) 地域共生社会の推進に向けた部内横断的連携体制について 【資料3】

○報告のあった保健事業と介護予防の一体的実施事業は、誰がどのようにコーディネートしていくのか。

●市としては国民健康保険・高齢者医療保険・介護保険の一体的実施に取り組むため、保険年金課に専門職として保健師1名を配置する。加えて被保険者及びサービス利用者のデータ解析や高齢者のフレイル予防等についても関連部局で連携し取り組んでいく。

○部内の連携体制による取り組みの一環として、先日私が住む地域に市から保健師がお越しになり介護予防等に関するお話をいただいた。是非また来ていただければと思う。

●先程、保険年金課への専門職配置について説明したが、地域福祉課でも令和2年度から理学療法士1名を配置することとしている。100歳体操の指導などで地域に出て皆様と関わっていけると考えている。

○私が住む地区の100歳体操参加者の中に、動作等が少し心配な方がいらっしゃる。是非理学療法士の専門的知見から指導をしていただきたい。

〈協議事項〉

(1) 地域活動支援事業の統合について 【資料4】

○是非事業の統合を進め、負担感の軽減等に努めてほしい。現状、支え合い事業、100歳体操、地域ふれあいサロンはそれぞれ異なる事務手続きを行っている。それゆえに地域では支え合い事業に新しく取り組む際、事務手続き等で負担感を感じるのだと思われる。

最終的に地域ふれあいサロン等の活動が支え合い事業に自然に吸収されていけば理想的だと考えている。

○地域ふれあいサロンへの補助金は5万円となっているが、これでは十分な活動を行うには不足だと感じている。地域活動支援事業の統合によって、サロンがより良い活動を行うことが出来るようになることを期待する。

●市では地域全体でお互いを支え合う地域づくりをしていただく、という思いで統合に取り組んでいく。100歳体操、地域ふれあいサロンはそのツールとして位置付けていきたい。しばらくの間は各事業を現状の形で継続しながら体制を整え、その後に事業の統合・整理に移行したい。

○100歳体操等の介護予防活動の有効性を示したデータを作っていただきたい。介護予防活動を地域に普及させる過程で説得力のある資料を示すことが出来る。

●現在データの収集を行っているところである。だが、100歳体操の効果を明確にできるだけのデータを得るには至っていない。データ収集の期間が短いことが原因として考えられる。今後もデータ収集は続けていきたい。

○シルバー人材センターとしても、「社会参加機会の提供」という形で地域住民の介護予防に参画していきたい。